



青木満男教授近影

青木満男教授定年退職記念号によせて

経済学部長 梅 垣 邦 胤

青木満男先生は、平成 17 年 3 月 31 日をもちまして、定年によりご退職になり、『名城論叢』におきまして、記念号を刊行することになりました。

先生は昭和 7 年に大阪でお生まれになりました。昭和 7 年といえば、アメリカの株価の大暴落から始まる世界恐慌のさなかであり、日本においても昭和恐慌として東北の農村の困窮などがありました。日華事変、そして太平洋戦争が眼前に迫る時代に先生は幼児期を送られたことがわかります。昭和 30 年 3 月に神戸商科大学商経学部をご卒業になり、同年に大阪市立大学大学院経済学研究科修士課程に進まれ、31 年には京都大学大学院経済学研究科修士課程に入学され、36 年には同大学院博士課程を単位取得満期退学されています。本学には、36 年 4 月に財政学担当講師として着任され、39 年 4 月には助教授、平成 11 年 4 月には教授になられています。35 年に日米安保条約が成立し、池田内閣により「所得倍増」が唱えられ、政治的経済的に日本は、アメリカとの同盟関係を深め、かつ発達した資本主義への道を歩む時期でした。

先生は、この間一貫して「財政学」の研究、教育を担ってこられ、現代資本主義における、多国間あるいは 2 国間協定が結ばれると、それにより、一国の財政構造が変容し、主権国家としての自主権が失われるという、新しい分野を共同研究により開拓されました。その成果は、有斐閣『現代財政学体系 第 4 巻』（昭和 48 年）として公表されています。国際財政という領域設定、先進資本主義国間における支配と被支配の関係が各国財政に与える規定性などは、斬新な視角であり、独創的な研究となっております。国家が権力的機能のみなのか、公共的機能をもつ条件は何か、国家の景気対策は需要喚起なのか、成長政策がその真の解決なのかなどは先生が終始、検討を続けられているテーマです。

名城大学教職員組合の委員長を何度かつとめられましたが、ベースアップに関し、組合の要求額より、理事会の回答額のほうが多くて、そのときのことは印象に残ると言われています。

勁草という言葉があります。自然のまま強く、素朴で、逞しい。先生からは、この勁草のようなイメージをうけます。強く、かつ素朴に、研究され、学生に向かわれ、スポーツ（水泳、テニス）をされ、同僚とのさまざまな交流を重ねられ、それが先生の人生そのものようです。ある年の卒業式と祝賀会の際に、数人の女子の卒業生が「青木先生はおられますか」と探していたのが印象的です。学生から慕われていることがよく分かる風景でした。

素朴さを主張することがだんだんと困難に思える世の空気のなかでは、先生が貫

かれたこの存在感はますます貴重に見えてきます。

青木先生, 長い間, 本学の研究, 教育の発展に努められ, またよき人間関係を作っ
てこられたこと, 本当にありがとうございました。今後のご健勝を祈っております。

青木満男教授略歴

(略歴)

- 1932年10月 大阪に生まれる
1951年 3月 大阪市立市岡商業高校卒業
1955年 3月 神戸商科大学商経学部卒業
1956年 3月 大阪市立大学大学院経済研究科修士課程退学
1958年 3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了
1961年 3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学

(職歴)

- 1961年 4月 名城大学商学部講師 (担当科目 財政学)
1964年 4月 名城大学商学部助教授 (担当科目 財政学)
1999年 4月 名城大学経済学部教授 (担当科目 財政学)

(学会・社会における活動)

- 日本財政学会会員
経済理論学会

青木満男教授研究業績

<著 書>

国際財政の史的展開	有斐閣	(共著)	1973年
-----------	-----	------	-------

<論 文>

公共投資論の一視覚	名城商学第13巻第4号	1964年
成長理論と財政政策 (1)	名城商学第23巻第3号	1974年
共同体と国 (上)	名城商学第34巻第3号	1985年
共同体と国 (中)	名城商学第35巻第2号	1985年
共同体と国 (下)	名城商学第36巻第2号	1986年
国家の政治的機能	名城商学第48巻第4号	1999年

<研究ノート>

財政危機論の三類型	名城商学第34巻第1号	1984年
-----------	-------------	-------

<書 評>

ジョン・ファイアストーン『連邦財政と景気循環1879～1958年』	名城商学第11巻第1号	1961年
アイルズ・タカー『完全雇用の諸問題』	名城商学第11巻第2号	1961年